



3歳のときに、1型糖尿病を発症したたまきちゃん(8歳)。痛みを伴う血糖値の測定、インスリン注射など我慢の多い日常が、穏やかな日々になることを願って。

毎日注射を打ち続けなくてはならない子どもたちのために 日本IDDMネットワーク

子どもにも多く発症し、今も「治らない病気」とされる1型糖尿病。その現実に向き合いながら、「治る未来」を本気でつくろうと動き続けてきた人々がいる。患者・家族と研究者の挑戦を支える、日本IDDMネットワークだ。寄付の力を研究へとつなぎ、治療の選択肢が広がる未来づくりに取り組んでいる。



理事長
岩永幸三



1型糖尿病の「根絶」を目指して

1型糖尿病は、子どもにも多く発症します。血糖を下げるホルモン「インスリン」をつくる「膵島」が突然壊れることで発症しますが、その原因はわかっていません。生活習慣病でも、先天性の病気でもありません。

発症後は、毎日4〜5回のインスリン注射や、ポンプによるインスリン補充が欠かせません。しかも現在の医療では治すことができない病気であり、患者・家族の絶望の大きさは計り知れません。「この子の将来はどうなってしまうのか」「代わられるなら代わってあげたい」という不安と罪悪感にさいなまれる家族は少なくありません。日本IDDMネットワークは、1型糖尿病の「根絶（治療+根治+予防）」を目指し、患者・家族一人一人

が希望をもって生きられる社会を目指し、活動しています。特に「1型糖尿病の根治を目指す研究」の助成に力を入れており、2005年に「1型糖尿病研究基金」を立ち上げて以来約9億4300万円*を支援してきました。

現在、バイオ人工膵島移植、自家移植（自分の細胞を自分に移植）、iPS細胞を用いた膵島再生など、研究領域は多様に広がっています。特にバイオ人工膵島移植と自家移植は、2035年までには希望するすべての患者が移植を受けられることを目指しています。遺贈寄付をもとに設立された山田和彦賞からは、ノーベル賞受賞者も誕生しています。子どもたちに希望を届けるために、皆さまのあたたかなご支援をお願い申し上げます。

認定NPO法人

日本IDDMネットワーク

所在地：佐賀県佐賀市八戸二丁目1-27-2

設立年／活動エリア：1995年／全国

実績等（受賞歴）：2015年 第11回日本パートナーシップ大賞 グランプリほか

不動産遺贈の受入可否：可能（応相談）

包括遺贈の受入可否：可能（応相談）

資料請求・活動に関するお問い合わせ

電話番号 0952-20-2062（平日9:00~17:00）

★お電話の際、『遺贈寄付ブック』を見た」とお伝えください

URL <https://japan-iddm.net/support/fund/devise/>

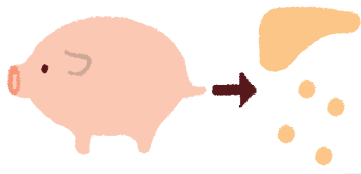
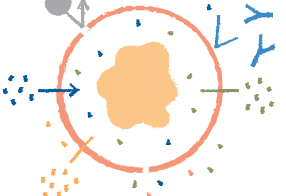
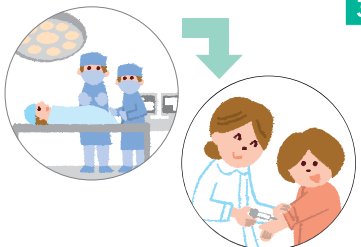



活動概要

1995年の阪神・淡路大震災を契機とした患者・家族の支え合いから生まれ、「1型糖尿病患者・家族が希望をもって生きられる社会」の実現を目指し活動。寄付を基盤に多様な研究支援を行うほか、患者・家族への正しい情報提供（発症初期に必要な情報を詰めた“希望のバッグ”の送付や各種セミナーの開催など）、成人患者医療費支援政策の要望にも取り組む。研究支援実績は大きく、年間約1億円の助成を行っている。

「治るよ」と言ってあげられる未来を実現するために

いま、1型糖尿病の根治に最も近いといわれる治療法 **バイオ人工膵島移植**

<p>無菌室で育てた医療用ブタからインスリンを分泌する「膵島」を取り出す</p> 	<p>栄養素は通るが免疫細胞は通らない特殊なカプセルに包む</p> 
<p>患者に移植（膵島補充）する（数年に1回皮下補充）</p> 	<p>毎日のインスリン補充や血糖値測定が不要な日々を過ごすことができる</p> 

寄付が支える多様な支援・研究

- | | |
|--|---|
| <p>1 患者・家族サポート
(啓発・相談・支援)</p> | <p>2 移植医療
(膵島移植・バイオ人工膵島移植)</p> |
| <p>3 再生医療
(iPS細胞、自家移植など)</p> | <p>4 新薬開発
(次世代抗体医薬など)</p> |
| <p>5 基礎研究
(免疫制御・発症メカニズム)</p> | <p>6 若手研究者・継続研究支援
(最長10年)</p> |

寄付が、治療・根治・予防まで、“不治の病”1型糖尿病の根絶へ向けた挑戦をあと押ししています。

遺贈寄付を基盤とする、「山田和彦賞」が寄り添った研究者たち

日本IDDMネットワークへの寄付は、研究者に寄り添い、その挑戦を支えてきました。「山田和彦賞（基金）」は、1型糖尿病患者であった故・山田和彦氏の遺贈寄付により設立された、1型糖尿病の根治に向けて尽力する研究者を顕彰し、その研究をあと押しする仕組みです。こうした支援の流れは、ノーベル賞を受賞する研究者の歩みとも重なり、未来を拓く力として息づいています。

(以下コメントはすべて100人委員[※]としてのコメントより抜粋)

PERSON 1 第3回山田和彦賞受賞(2021年) 松本慎一先生

日本初のヒト膵島移植に成功(2004年)
医療用ブタ開発機構代表理事



膵島移植と再生医療の融合は、1型糖尿病の根治に向けた大きな転換点になります。2030年代には、日帰りで行われる外来移植を実現し、希望する患者さん全員に“治る選択肢”を届けたいと考えています。そのためには、研究を絶えず前へ進めるための安定した資金が必要です。山田和彦1型糖尿病根治基金に代表される寄付の力は、研究者の挑戦を支え、新しい医療を生み出す原動力になっています。

PERSON 2 第2回山田和彦賞受賞(2019年) 坂口志文先生

ノーベル生理学・医学賞受賞(2025年)
大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授



私は、制御性T細胞の研究に対して、日本IDDMネットワークから山田和彦賞をいただきました。大変光栄に思っております。受賞を励みに1型糖尿病の完治を目指し、さらに研究を進めたいと思います。

PERSON 3 第1回山田和彦賞受賞(2018年) 山中伸弥先生

ノーベル生理学・医学賞受賞(2012年)
京都大学iPS細胞研究財団 理事長

©京都大学 iPS細胞研究所



日本IDDMネットワークが「1型糖尿病を治す」ための研究基金を設置し、長年にわたり研究者との交流活動を促進し、研究費を支援されていることは本当に大切に素晴らしいことだと思います。CiRA研究者も研究助成をいただいております。心より感謝申し上げます。

本書 齋藤弘道からのコメント

1型糖尿病の根治までもう少し。患者・家族・関係者などからのご支援が必要です。